

Japanese Immersion 11th & 12th Grade Required Poems (Even Years)

平和

たにかわしゅん た ろう
谷川俊太郎

平和

それは空気のように

当たり前なものだ

それを願う 必要はない

ただ それを呼吸していればいい

平和

それは今日のように

退屈なものだ

それを歌う必要はない

ただそれに耐えればいい

平和

それは散文のように

素気ない ものだ

それを祈ることはできない

祈るべき神がないから

平和

それは花ではなく

花を育てる土

平和

それは歌ではなく

生きた唇

平和

それは旗ではなく

汚れた服

平和

それは絵ではなく

古い額縁

平和を踏んづけ

平和を使いこなし

手に入れねばならぬ希望がある

平和と戦い

平和にうち勝って

手にいれねばならぬ喜びがある

Japanese Immersion 11th & 12th Grade Alternate Poems

にぎりこぶし 村野四郎

悲しい時や 苦しい時
僕は いつも
こぶしを 固く握りしめる
すると、苦しみや 悲しみは
みんな 僕から 逃げてゆく
勉強で 泣きたくなったとき
僕はぐっと
こぶしを 固く握りしめる
すると、本の字が はっきり見えてくる
また、北風が ビュービュー ふいて
僕をいじめる時
ぼくは胸をはり
ぐっと、こぶしを握りしめる
すると 風のやつ
急に道ばたの木へ 逃げ帰り
枝を ガサガサ くやしそうに
ゆすっているんだ

『けれども大地は・・・』^{しんかわかずえ}新川和江

秋が
たえまなく 木の葉を降らせて
ものがたりしている

遠い森で 谷間で
公園で
まどのすぐ外で

そのものがたりに
人びとは耳を傾けはするが
とてもいちどきには
聞きとることも
読みとることもできない

けれども大地は
のこらず すっかり聞いてやって
母親のように
いちばん あとで やすむ